

# 非英語圏における人口統計の入手可能性

「人口関連情報に関する研究会」報告書

平成 26 (2014) 年 3 月

# 目 次

はしがき

1. 日本

2. 韓国

3. 中国

4. 台湾

5. ドイツ

6. スペイン

7. ロシア

8. フランス

## 人口関連情報に関する研究会 名簿

鈴木 透 (国立社会保障・人口問題研究所、研究企画委員会委員長) 日本・韓国・台湾  
小島 宏 (早稲田大学、研究企画委員会副委員長) フランス  
早瀬保子 (元 JETRO アジア経済研究所、研究企画委員会委員) 中国  
西岡八郎 (元国立社会保障・人口問題研究所、研究企画委員会委員) スペイン  
林 玲子 (国立社会保障・人口問題研究所、研究企画委員会委員) ロシア

原 俊彦 (札幌市立大学、依頼執筆者) ドイツ

## はしがき

日本人口学会研究企画委員会は、2013年2月末締切で研究会を公募した。しかし学会の運営が逼迫した昨今の状況に鑑みて、研究費を補助できる可能性がほとんどないことから、応募はなかった。そこで研究企画委員会自体が、研究費を伴わない研究会として活動することとした。そして「人口関連情報に関する研究会」として2013年3月の理事会に申請し、承認された。

本研究会はインターネット上における国内外の人口関連情報の整理・分析を目的としたものだったが、具体的な活動内容として、非英語圏諸国・地域の人口情報が英語でどの程度利用可能かを調査することにした。言い換えると、どの範囲からはその言語でないと情報を入手できないのか、特定しようとした。研究委員会のメンバーで中国語（早瀬・鈴木）、韓国語（鈴木）、フランス語（小島）、スペイン語（西岡）、ロシア語（林）をカバーできたが、ドイツ語に堪能な委員がいないことから、原俊彦会員に参加をお願いした。

比較の結果、日本の総務省統計局と厚生労働省統計情報部は、英語での情報発信に相対的に熱心であることがわかる。たとえ最近のものに限られるとは言え、報告書のすべての表が英語でも入手できるのは、稀な部類に属するのではないかと思われる。今後は英語による情報発信が過去のデータにも及び、人口学に限らず世界の日本研究者の利用に資することを期待したい。

日本以外の非英語圏では、たとえば年齢別出生率や初婚率、男女・年齢別の配偶関係分布や外国人割合、国際結婚・国際離婚の動向といったトピックに関し独自の人口学的分析を行おうとすれば、当該言語が読めなければ難しいようである。次第に改善されて行くものと思われるが、特異で詳細な情報を必要とする分析ほど英語だけでは難しいという状況は、すぐには解消しそうにない。ただし機械翻訳の精度向上などにより各国語のデータの利用可能性が改善されることも考えられ、こうした動向を注視しつつノウハウを蓄積して行くことは重要だろう。また今回は8カ国の状況把握にとどまったが、今後はさらに対象国を追加して状況を把握して行く必要があるだろう。

## 1. 日本

総務省統計局は近年精力的に英語での情報発信を行っており、2010年国勢調査はすべての表が e-Stat の英語ページからダウンロードできる。各年 10 月 1 日現在推計人口や住民基本台帳人口移動報告も同様である。ただしここまで充実したのは近年のことで、2005年国勢調査については英語ページからダウンロードできるのは報告書掲載表のみで、報告書非掲載表や新分類区分による遡及集計は日本語ページからでなければ見られない。さらに 2000 年国勢調査は、英語で利用可能なのは第 1 次・第 2 次基本集計の報告書掲載表に限られ、第 3 次基本集計や抽出詳細集計結果等は日本語のみとなっている。1995 年以前の国勢調査は、日本語・英語ページとも概要のみで、Excel や CSV ファイルはあっても一部に限られる。

厚生労働省の人口動態統計は、英語ページからダウンロードできるのは 2009 年以降、日本語ページからは 1995 年以降となっている。2009 年以降でも年報掲載表以外の情報は、日本語のみとなっている。

法務省の出入国管理等計や在留外国人統計は、英語ページが見つからない。

総務省統計局 (e-Stat) 2013年10月閲覧

	英語で入手可能な情報 <a href="http://www.e-stat.go.jp/SGL/estat/eStatTopPortalE.do">http://www.e-stat.go.jp/SGL/estat/eStatTopPortalE.do</a>	日本語でのみ入手可能な情報 <a href="http://www.e-stat.go.jp/SGL/estat/eStatTopPortal.do">http://www.e-stat.go.jp/SGL/estat/eStatTopPortal.do</a>
国勢調査(2010)	全て入手可能	—
国勢調査(2005)	報告書掲載表	報告書非掲載表、新分類区分による遡及集計
国勢調査(2000)	第 1 次・第 2 次基本集計の報告書掲載表	報告書非掲載表、新分類区分による遡及集計、 第 3 次基本集計、抽出詳細集計結果等
国勢調査(1920～95)	概要のみ	概要のみ
各年10月1日現在推計人口	全て入手可能	—
住民基本台帳人口移動報告	全て入手可能	—
人口動態統計(2009～)	年報の各統計表、人口動態統計職業・産業別調査	速報、月報、保管統計表都道府県編 (報告書非 掲載表)
人口動態統計(1995～2008)	英語ページなし	—
出入国管理統計	英語ページなし	—
在留外国人統計	英語ページなし	—

人口動態統計には年次別総覧があり、最新年次までの長期時系列データが得られる。たとえば合計出生率は、1947 年以後の各年の値が得られる。それ以外の人口指標については、e-Stat から Japan Statistical Yearbook と Historical Statistics of Japan へのリンクがあり、各種統計の長期時系列データが得られる。より人口学に特化した資料としては、国立社会保障・人口問題研究所の Population Statistics of Japan があるが、e-Stat 以外の径路で探し出す必要がある。

将来人口推計も e-Stat にリンクがなく、国立社会保障・人口問題研究所のページを探し当てなければならない。また、英語ページからダウンロードできるのは各仮定に付き年齢 3 区分別人口と年齢構造に関する指標に限られ、より詳細な情報は日本語のみとなっている。

	英語で入手可能な情報 <a href="http://www.ipss.go.jp/site-ad/index_english/esuikei/gh2401e.asp">http://www.ipss.go.jp/site-ad/index_english/esuikei/gh2401e.asp</a>	日本語でのみ入手可能な情報 <a href="http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/newest04/sh2401smm.html">http://www.ipss.go.jp/syoushika/tohkei/newest04/sh2401smm.html</a>
将来推計人口(2012)	年齢3区分(0～14歳, 15～64歳, 65歳以上)別人口 平均年齢・従属人口比等	年齢4区分(0～19歳, 20～64歳, 65～74歳, 75歳以上)別人口 年齢4区分(0～17歳, 18～34歳, 35～59歳, 60歳以上)別人口 高年齢区分(70歳以上, 80歳以上, 90歳以上, 100歳以上)別人口 年少人口および老年人口に対する潜在扶養指数 年齢3区分(0～14歳, 15～64歳, 65歳以上)別人口の増加数および増加率(1年) 年齢3区分(0～14歳, 15～64歳, 65歳以上)別人口の増加数および増加率(5年) 出生, 死亡および自然増加の実数ならびに率 男女年齢各歳別人口 出生順位別出生数 母の年齢5歳階級別出生数 男女年齢4区分(0～14歳, 15～64歳, 65～74歳, 75歳以上)別死亡数

## 2. 韓国

韓国統計庁のポータルサイト **KOSIS** では作表に用いる項目やその詳細度を選んで **Excel** ファイルをダウンロードできるが、利用には専用のビューワーをダウンロードする必要がある。センサス(人口住宅総調査)については、英語で入手できるのは男女別、内外国人別総人口や家口(世帯)総数に限られ、年齢別等の詳細な結果は韓国語でなければ入手できない。標本抽出集計等の結果についても、そもそも英語ページがない。**KOSIS** 以外でも、英語によるセンサス結果はプレスリリース程度のものしか見つからない。

人口動態統計の件数や率の長期時系列データは英語でも **KOSIS** から入手可能だが、男女年齢別などの詳細な結果は、やはり韓国語でしか得られない。表ごとに遡れる年次がまちまちだが、基本的に韓国語で入手可能な年次は英語でも入手可能と思われる。

国際人口移動に関する統計のうち英語で **KOSIS** から入手可能なのは、出入国数に関する統計の一部で、韓国人の出国先に関する統計や、長期移動(滞留期間が1年以上であるもの)の統計は韓国語でしか入手できない。滞留外国人に関する統計は英語ページがなく、韓国語でもごく最近の年次しか入手できないものが多い。

将来推計人口は、**KOSIS** の表題リストが英語と韓国語で異なるが、基本的に全ての情報が英語でも得られるようである。

韓国統計庁統計ポータル(KOSIS) 2013年10月閲覧

	英語で入手可能な情報 <a href="http://kosis.kr/">http://kosis.kr/</a>	韓国語でのみ入手可能な情報 <a href="http://kosis.kr/eng/">http://kosis.kr/eng/</a>
2010年センサス：全数部門	男女別、内国人・外国人別人口	男女別、年齢別人口 男女別、年齢別、教育程度別人口 男女別、年齢別、婚姻状態別人口 男女別、年齢別、家口主との関係別人口 男女別、年齢別、世代構成別人口
2010年センサス：外国人	英語ページなし	韓国語のみ
2010年センサス：通勤・通学（10%標本）	英語ページなし	韓国語のみ
2010年センサス：国内人口移動統計（10%標本）	英語ページなし	韓国語のみ
2010年センサス：活動制約（10%標本）	英語ページなし	韓国語のみ
2010年センサス：女性・児童（10%標本）	英語ページなし	韓国語のみ
2010年センサス：高齢者（10%標本）	英語ページなし	韓国語のみ
2010年センサス：社会活動（10%標本）	英語ページなし	韓国語のみ
2010年センサス：経済活動（10%標本）	英語ページなし	韓国語のみ
2010年センサス：産業・職業（10%標本）	英語ページなし	韓国語のみ
人口動態統計：総覧（1970～）	全て入手可能	—
人口動態統計：出生（1981～、またはそれ以降）	母の年齢別、子の男女別出生数 市道別複産数 妊娠期間別、子の男女別出生数	父母の教育程度別出生 出生児の体重別出生 出産場所別（自宅・病院・其他・未詳） 出生
人口動態統計：死亡（1983～、またはそれ以降）	男女別、年齢別死亡数・率 男女別、年齢別、市道別死亡率	男女別、年齢別、婚姻状態別死亡者数 男女別、年齢別、教育程度別死亡者数 男女別、年齢別、職業別死亡者数
人口動態統計：婚姻（1990～、またはそれ以降）	夫妻の年齢別婚姻数 夫妻の年齢別、市道別婚姻数 男女別、市道別平均初婚年齢	夫妻の初婚・再婚別婚姻数 男女別、平均再婚年齢数 初婚夫婦の年齢差別初婚数 再婚夫婦の年齢差別再婚数 年齢別、教育程度別初婚数 年齢別、教育程度別再婚数 外国人妻の国籍別婚姻数 外国人夫の国籍別婚姻数
人口動態統計：離婚（1990～、またはそれ以降）	市道別、離婚時の夫妻の平均年齢 夫妻の年齢別、結婚期間別離婚数	年齢別、離婚事由別離婚数 年齢別、離婚種類（協議離婚・裁判離婚・未詳）別離婚数 年齢別、未成年子女数別離婚数 職業別離婚数 年齢別、教育程度別離婚数 年齢別、外国人妻の国籍別離婚数 年齢別、外国人夫の国籍別離婚数 未成年子女数別、外国人妻の国籍別離婚数 未成年子女数別、外国人夫の国籍別離婚数 離婚種類（協議離婚・裁判離婚・未詳）別、外国人との離婚数
出入国統計（2000～、またはそれ以降）	内外国人別、男女別、年齢別、入国地別、入国数・出国数 外国人の男女別、年齢別、国籍別、滞留資格別、入国数・出国数 英語ページなし	内国人の男女別、出国先国家別、目的別、出国数 内外国人別、男女別、年齢別、長期（滞在期間1年以上）入国数・出国数 韓国語のみ
滞留外国人統計（1992～、またはそれ以降）	全て入手可能	—
将来推計人口（2010年版）	全て入手可能	—

## 3. 中国

### 3. 1 統計局と各省庁の統計

#### (1) 中華人民共和国国家統計局（中国国家統計局）

<http://www.stats.gov.cn/>

中国国家統計局は、日本の統計局のリンク集から外国政府の統計機関経由で入ることができる。日本の統計局のリンク集から検索する場合は中国国家統計局の英語のホームページに入る。国家統計局は英語での情報発信も行っており、センサスや統計年鑑など英語情報によって閲覧出来る。しかし、多くの詳細情報の利用には、中国国家統計局のホームページの右上のコーナーから Chinese GB（簡体語）、Chinese BIG5（繁体語）のいずれかを選び、中国語による情報収集を行う。全国のみならず地区の数字、あるいは各省庁を選択し、主に中国語で閲覧することが可能である。

中国の詳細な報告書掲載表を含む統計情報は、Vista では閲覧可能であったが、Windows 7 で閲覧できなく、この問題について、以下のブログでその対策を紹介している。

<http://blog.goo.ne.jp/mardinho/e/88f4a7c9887084b2feb501892d4e312c>

これによると、Windows 7 であっても、Internet Explorer 9 であれば閲覧できるが、Internet Explorer 10 では閲覧できないことが示される。この解決法は Lunascape という無料ブラウザをダウンロードすることによって Windows 7 でも Windows 8 でも閲覧可能となる。Lunascape には閲覧モードが3つあり、そのうち Trident エンジンにすると閲覧できる。

Lunascape から中国国家統計局 (<http://www.stats.gov.cn/>) を検索すると、中国語のみならず英語のサイトから入った場合も、各年の中国統計年鑑や 2010 年人口センサスの報告書掲載表がすべて EXCEL でダウンロード可能である。なお、毎年の人口は、各年年末 12 月 31 日現在の推計人口である。

以下は、各省庁の人口、労働力、国際移動に関する統計について示したもので、国家統計局の WEB より Other Government Agencies（「部門データ」）を選択して検索可能である。各省庁の情報は英語での情報は少なく、大半が中国語での情報のみである。

#### (2) 中華人民共和国人力資源和社会保障部（労働社会保障省）

<http://www.mohrss.gov.cn/SYrlzyhshbzb/zwgk/szrs/>

労働社会保障省は、ホームページ中、統計年鑑を選択すると、中国語でのみ「中国労働統計年鑑」の報告書掲載表を EXCEL でダウンロード可能である。中国語のみでのアクセスであるが、掲載表には、中国語と英語が併記されている。

[http://www.mohrss.gov.cn/SYrlzyhshbzb/zwgk/szrs/ndtjsj/tongjinnianjian/201206/t20120627\\_67042.htm](http://www.mohrss.gov.cn/SYrlzyhshbzb/zwgk/szrs/ndtjsj/tongjinnianjian/201206/t20120627_67042.htm)



(3) 中華人民共和国国家衛生和計画生育委員会 (衛生・計画出産局)

<http://www.moh.gov.cn/zwgkzt/pwstj/list.shtml>

衛生・計画出産局は「中国衛生統計年鑑」の報告書掲載表を EXCEL でダウンロード可能である。中国語のみでのアクセスで、掲載表も中国語のみである。他に衛生・計画出産統計の月別、季(四半期)別、半年別の最新の情報も掲載している。

<http://wsb.moh.gov.cn/htmlfiles/zwgkzt/ptjnj/year2011/index2011.html>

(4) 中華人民共和国国家旅遊局 (旅行局)

<http://www.cnta.gov.cn/html/rjy/index.html>

中国語のみでのアクセスである。ホームページより旅遊統計を選択し、外国人入国者数について、国籍別、目的別、男女年齢別、入国手段(陸路、航路、水路など)別、月別に報告。中国語のみでのアクセスできる。掲載表は、中国語、英語が併記されている。データのコピーはできないが、印刷は可能である。年の入国者については、旅遊統計の総合を選択すると各年の統計公報「2012年中国旅游业统计公报」(中国語のみ)を閲覧、印刷およびコピーが可能である。

<http://www.cnta.gov.cn/html/2013-9/2013-9-12-%7B@hur%7D-39-08306.html>

(5) 中華人民共和国教育部 (教育省)

<http://www.moe.gov.cn/publicfiles/business/htmlfiles/moe/s7382/index.html>

教育統計データは公表されていない。

### 3. 2 統計局と各省庁の統計情報とアクセスについて

中国国家統計局 National Bureau of Statistics of China (NBS)		2013年11月28日現在の情報
<a href="http://www.stats.gov.cn/">http://www.stats.gov.cn/</a>		
データの種類	中国語でのみ入手可能な情報	英語で入手可能な情報
人口センサス (人口普查)	ホームページから簡体語、繁体語のいずれかを選択 WEBより統計データを選択 各回センサスの人口普查公報とセンサス結果(普查データ)の閲覧 人口普查からセンサス年(2000年、2010年)を選択 人口センサス報告書の掲載表が、EXCELでDownload可能	ホームページからEnglishを選択 WEBよりStatistical Dataを選択 Census Dataを選択する。2010年人口センサスのみ閲覧可能 報告書の掲載表をEXCELでDownload可能 報告書の掲載表は、表題、表頭、表側ともに英語で掲載
中国統計年鑑	WEBより統計データを選択 年度データを選択し、中国統計年鑑の年度を選ぶ。報告書の掲載表をEXCELでDownload可能	WEBよりStatistical Dataを選択、 Annual Dataを選択し、中国統計年鑑の年度を選び、報告書の掲載表をEXCELでDownload可能、報告書の掲載表は、表題、表頭、表側ともに英語で掲載
年、四半期、月の統計	全国については月(「月度データ」)、四半期(「季度データ」)、年(「年度データ」)のいずれかを選び、各地域の情報は「地区データ」を選択 <a href="http://data.stats.gov.cn/workspace/index?m=hgnd">http://data.stats.gov.cn/workspace/index?m=hgnd</a> 年の統計については、統計年鑑に掲載されている各種統計情報を掲載 年の人口統計には、総人口、出生率、死亡率、自然増加率、年齢構成、平均寿命、2010年人口センサス結果の基本情報と標本人口調査統計情報は、EXCELへのコピーが可能である	Annual のみ利用可能で、統計年鑑と同一情報。
地区統計 (年の統計)	<a href="http://data.stats.gov.cn/workspace/index?m=fsnd">http://data.stats.gov.cn/workspace/index?m=fsnd</a> 各地域の情報は、年の統計とほぼ同様であるが、人口に関しては年齢情報が含まれていない。上記統計情報は、EXCELへのコピーが可能	
最新公表情報	各年の年度統計公報 (公表日程別の主要統計情報)	Press Releaseで公表日程別の主要統計情報

各省庁の統計は国家統計局のWEBより「部門数据」を選択		
作成機関とそのWEB	データの種類	中国語でのみ入手可能な情報
人力資源和社会保障部 <a href="http://www.mohrss.gov.cn/SYrlzyhshbzb/zwgk/szrs/">http://www.mohrss.gov.cn/SYrlzyhshbzb/zwgk/szrs/</a>	中国労働統計年鑑 登録失業数、登録失業率、産業別就業数、賃金など(統計表は英語、中国語併記)	<a href="http://www.mohrss.gov.cn/SYrlzyhshbzb/zwgk/szrs/ndtjsj/tongjiinianjian/201206/t20120627_67042.htm">http://www.mohrss.gov.cn/SYrlzyhshbzb/zwgk/szrs/ndtjsj/tongjiinianjian/201206/t20120627_67042.htm</a> 香港、マカオと台湾の産業別、職業別就業者、失業者も掲載 報告書掲載表をEXCELでダウンロード可能
国家衛生和計画生育委員会(衛生・計画出産局) <a href="http://www.moh.gov.cn/zwgkzt/pwsti/list.shtml">http://www.moh.gov.cn/zwgkzt/pwsti/list.shtml</a>	中国衛生統計年鑑	出生率、死亡率、乳児死亡率、妊産婦死亡率、地区別婚前検査数、地区別家族計画統計など(統計表は英語、中国語併記)、EXCELでコピー可能 <a href="http://wsb.moh.gov.cn/htmlfiles/zwgkzt/ptjnj/year2011/index2011.html">http://wsb.moh.gov.cn/htmlfiles/zwgkzt/ptjnj/year2011/index2011.html</a>
国家旅遊局 <a href="http://www.cnta.gov.cn/html/rjy/index.html">http://www.cnta.gov.cn/html/rjy/index.html</a>	外国人入国者数	国籍別、目的別、男女年齢別、入国手段(陸路、航路、水路など)別、月別に報告(統計表は英語、中国語併記) 中国旅游业统计公报統計表も中国語のみ (http://www.cnta.gov.cn/html/2013-9/2013-9-12-%7B@hur%7D-39-08306.html)

## 4. 台湾

台湾の人口普查(センサス)の主管部署は行政院主計總處だが、民国 99 年人口普查(2010 年センサス)のページは主計總處のサイト([www.dgbas.gov.tw](http://www.dgbas.gov.tw))の外にある。

中国語 <http://ebas1.ebas.gov.tw/phc2010/chinese/rchome.htm>

英語 <http://ebas1.ebas.gov.tw/phc2010/english/rehome.htm>

リンクされている XLS または PDF ファイルは中国語・英語共通で、日本の統計局と同じく表題・表頭・表側に英訳が付いた形式である。したがって 2010 年センサスの結果はすべて英語でも得られると言える。1990 年センサス、2000 年センサスも同様で、すべての情報が英語で得られる。しかし 1980 年以前のセンサスと、1984 年の「人口及居住調査」には英語ページがない。ちなみに中国語ページには「歴次普查結果摘要表」があり、1956,1966,1970,1975,1980,1990,2000 年センサスの主要結果が得られる。しかし英語では、1990 年より以前の結果を得ることはできないようである。

人口静態・動態統計の中国語版は主計總處のサイト内にあるが、英語版は National Statistics というポータルサイトに掲載されている。

中国語 <http://www.dgbas.gov.tw/np.asp?ctNode=4593>

英語 <http://eng.stat.gov.tw/lp.asp?ctNode=2265&CtUnit=1072&BaseDSD=36&MP=5>

ただし中国語版で「生命統計」「人口遷移統計」を選択しても、その先の表題は文字化けしてしまい、XLS ファイルをダウンロードしてみないと何の表なのかわからない。「生命

統計」がいわゆる人口動態統計で、出生・死亡・婚姻・離婚に関する XLS ファイルをダウンロードできる。

上記の英語ページからダウンロードできる人口動態統計は、年次別動態件数以外は、出生・死亡に関する表に限られる。婚姻・離婚に関する年齢別等の詳細な表は、中国語ページからしかたどり着けない。センサスと異なり、人口動態統計の XLS ファイルは中国語のみで、英訳は付いていない。

上記の英語ページからは、将来人口推計の PDF ファイルがダウンロードできる。XLS ファイルは主管部署である行政院経済建設委員会のページからダウンロードできるが、中国語のみである。

<http://www.cepd.gov.tw/m1.aspx?sNo=0000455&key=&ex=2&ic=0000153>

#### 台湾の人口センサス 2013年11月閲覧

	英語で入手可能な情報 <a href="http://ebas1.ebas.gov.tw/phc2010/english/rehome.htm">http://ebas1.ebas.gov.tw/phc2010/english/rehome.htm</a>	中国語でのみ入手可能な情報 <a href="http://ebas1.ebas.gov.tw/phc2010/chinese/rchome.htm">http://ebas1.ebas.gov.tw/phc2010/chinese/rchome.htm</a>
2010年センサス	全て入手可能	—
2000年センサス	全て入手可能	—
1995年小センサス	—	中国語のみ
1990年センサス	全て入手可能	—
それ以前	—	中国語摘要（歴次普查結果摘要表）のみ

#### 台湾の人口統計 2013年11月閲覧

	英語で入手可能な情報 <a href="http://eng.stat.gov.tw/lp.asp?ctNode=2265&amp;CtUnit=1072&amp;BaseDSD=36&amp;MP=5">http://eng.stat.gov.tw/lp.asp?ctNode=2265&amp;CtUnit=1072&amp;BaseDSD=36&amp;MP=5</a>	中国語でのみ入手可能な情報 <a href="http://www.dgbas.gov.tw/np.asp?ctNode=4593">http://www.dgbas.gov.tw/np.asp?ctNode=4593</a> <a href="http://www.cepd.gov.tw/m1.aspx?sNo=0000455&amp;key=&amp;ex=2&amp;ic=0000153">http://www.cepd.gov.tw/m1.aspx?sNo=0000455&amp;key=&amp;ex=2&amp;ic=0000153</a>
人口動態統計	動態件数、出生・死亡の詳細表	婚姻・離婚の詳細表
将来人口推計	概要版(PDF)	詳細推計結果(XLS)

## 5. ドイツ

ドイツ連邦統計局 --Federal Statistical Office

●フロントページ

<https://www.destatis.de/EN/Homepage.html?jsessionid=306E8A6906F863047DAE4A9485377D9B.cae3>

ドイツ連邦統計局も、日本の統計局のリンク集から外国政府の統計機関経由で入ることができる。通常は、そこから英語のホームページに入るが、調査時点でリンクが故障しており、ドイツ語の HP に入り、英語バージョンに切り替えて入る。連邦統計局は英語での情報発信も行っており、センサスや統計年鑑など英語情報によって閲覧出来る。

## KEY FIGURES

Population (31.12.)	2012	80.5 Mill.
Economic growth	2012	0.7%

Inflation rate	2012	2.0%
Increase in real earnings	2012	0.5%
Share in gross domestic product		
Net lending	2012	0.1%
Public debt	2012	81.0%

主要統計のトップに最新の人口総数が表示されており、この人口の部分をクリックすると、人口関係のページに移動し、

<https://www.destatis.de/EN/FactsFigures/SocietyState/Population/Population.html>

再び、人口関係の主要統計が示され、その項目から、人口動態統計の出生・死亡・移動・世帯などのページに移動する。

## KEY FIGURES

Population (31.12.)	2012	80.5 mn
Live births	2012	673,544
Deaths	2012	869,582
Net migration	2011	+279,207
Households	2012	40.7 mn
Families with minor children	2012	8.1 mn
Share of foreigners (31.12.)	2012	8.2%
Population with migrant background	2012	20.0%

ただし、大部分の情報は、統計資料集のレベル（ただし、時系列でも入手可能）であり、やはり詳細な情報（特にファイル化されたもの）はドイツ語に限定される。

例：人口推計 Population projection

Tables :

Results of the 12th coordinated population projection for Germany, xls - Datei (only in German)

Results of the 12th coordinated population projection by Länder (only in German)

なお、ドイツの国勢調査は、最新のものは2011年5月9日実施されているが、このページで英語で入手可能な数値は、センサスに基づく推計値である。

● データベース

#### a) GENESIS-Online

フロントページの下部に、オプションがあり、データベース DATABASES の項目に、GENESIS-Online があり、これをクリックすると詳細なデータベースがあり、検索により、必要なデータを探し、項目などを自分で入力して作表できる。

[https://www-genesis.destatis.de/genesis/online/data;jsessionid=97FA1BE23CB40CF51787F8BF1FE88D68.tomcat\\_GO\\_1\\_2?operation=sprachwechsel&option=en](https://www-genesis.destatis.de/genesis/online/data;jsessionid=97FA1BE23CB40CF51787F8BF1FE88D68.tomcat_GO_1_2?operation=sprachwechsel&option=en)

しかし、このページはドイツ語がベースで、右上のタグで英語バージョンに切り替えても、操作項目が英語に切り替わるだけであり、Content もドイツ語例 (Bevölkerung (ab 15 Jahren)) なので、英語のみでは利用できない。

#### b) Regional-datenbank

地域別 (476 地域) についてのデータを GENESIS-Online と同様の仕組みで入手可能である。データ項目がドイツ語なので英語のみでは利用できない。

#### ●The Information System of the Federal Health Monitoring

健康関係の情報システムで、Health Status→Mortality→

Regional Differences in Mortality、Causes of Death、Infant and Mothers' Mortality、Life Expectancy、Terminal Care などのデータが得られる。疾病関係などは、こちらを利用すると良いかも知れない。

#### ●Measuring administrative costs with the Standard Cost Model

行政コストの透明化をめざす情報システム・データベースで、社会福祉、医療などの情報もあるかも知れない。

#### ●Zensusdatenbank des Zensus 2011 2011 年国勢調査データベース

英語版にはないが、ドイツ語のフロントページのデータベース欄には、2011 年国勢調査の結果が公表されている (ドイツ語のみ)。こちらは推計ではなく、2011 年 5 月 9 日現在。簡易集計と個別集計のページがあり、リクエストベースで作表が可能である。

ドイツ連邦統計局 (Destatis:Federal Statistical Office) 2013年12月閲覧

	英語で入手可能な情報	ドイツ語でのみ入手可能な情報
国勢調査(2011)に基づく推計人口	2011. 6. 30, 12. 31, 31. 2012. 6. 30, 12. 31.	電子ファイル、データベースによる作表
それ以前の国勢調査に基づく推計人口	2006-2011	国勢調査 (2011年5月9日現在 データベース
将来人口推計	第11回 (2009)、第12回 (2011)	https://ergebnisse.zensus2011.de/#Home:
世帯統計	2005-2012	簡易集計、リクエストベースでの作表可能
世帯将来推計	2009-2030まで、2009 のマイクロセンサスによ	
出生	2011 TFR : 1990-2012	地域別 (476地域) についてのデータベース
死亡	2011 1950-2012 生命表 2009/2011	https://www.regionalstatistik.de/genesis/online/data:jsessionid=756AE441EB1327F929F44881911894FF?operation=sprachwechsel&option=en
婚姻・離別	2011 1950-2012	健康関係の情報システム
出入国管理統計	簡単な記述のみ	http://www.gbe-bund.de/gbe10/pkg_isgbe5.prc_isgbe?p_uid=gast&p_aid=&p_sprache=E
在留外国人統計ではなく		行政コストの透明化をめざす情報システム・データベース
国勢調査(2011)に基づく推計人口	2011. 6. 30, 12. 31, 31. 2012. 6. 30, 12. 31.	https://www-skm.destatis.de/webskm/online
それ以前の国勢調査に基づく推計人口	なし	

●ドイツ連邦人口研究所 the Federal Institute for Population Research (Bundesinstitut für Bevölkerungsforschung, BiB)

[http://www.bib-demografie.de/EN/Home/home\\_node.html](http://www.bib-demografie.de/EN/Home/home_node.html)

数値情報 Facts and Figures

総人口 Population Balance and Age Structure

婚姻 Marriages

離婚 Divorces

出生 Fertility

死亡 Mortality

中絶 Abortions

世帯 Household Compositions

家族 Families and Living Arrangements

などの情報があり、時系列で、グラフ、数値、地図などが得られる。最終的な情報はドイツ語表記となる。

●マックス・プランク人口学研究所 the Max Planck Institute for Demographic Research (MPIDR)

のオンラインデータベース Online Databases

他の研究所との共同データベースや、外部のデータベースへのリンク。メールによるリクエストベースでの利用など様々。

[http://www.demogr.mpg.de/en/projects\\_publications/online\\_databases\\_1906/default.ht](http://www.demogr.mpg.de/en/projects_publications/online_databases_1906/default.ht)

m

死亡データベース : Human Mortality Database

出生データベース : Human Fertility Database (HFD)

生命表データベース: Human Life-Table Database

長寿化データベース International Database on Longevity (IDL)

長寿記録 Longevity Records:

カニストー・サッチャー高齢死亡データベース : Kannisto-Thatcher Database on Old Age Mortality

ジェネレーション&ジェンダーのデータベース (GGP へのリンク) Generations & Gender Contextual Database

比較家族政策のデータベース : Comparative Family Policy Database

人口と政策データベース Population and Policy Database

●ベルリン人口・開発研究所 The Berlin Institute for Population and Development

<http://www.berlin-institut.org/online-handbuchdemografie/bevoelkerungswissenschaft/forschung-und-lehre.html>

この中の

オンライン・人口ハンドブック : the Online-Handbook Demography

が、人口関係の情報を流しているが、トピック的な国際比較。

## 6. スペイン

・スペイン統計局のポータルサイト (INE) で、下記の表中の必要な項目を選ぶとデータが表示され、エクセルでデータを入手することが可能である。

・下記の表以外に同サイト上で、①「Statistical Yearbook」(1858~2013年、スペイン語版のみ)、②「Spain in Figure」(1999~2012年、英語版、スペイン語版) などスペインの基本的な人口情報の概説版が閲覧できる。

スペイン統計局ポータルサイト (INE) 2013年12月閲覧

	英語で入手可能な情報	スペイン語のみで入手可能な情報
1991年センサス	—	人口 世帯数
2001年センサス	—	人口 世帯数
人口動態統計 (婚姻 : 1996~2012年)	居住地、男女の年齢、性別、 初婚または再婚、職業	
人口動態統計 (離婚)	—	—
人口動態統計 (出	父母の居住地、年齢、婚姻状	



生：1996～2012年)	態、子の性別、子の出生順序、 初婚時の年齢、就業状態、子の 体重	
人口動態統計（死 亡：1996～2012年)	居住地域、年齢、出生年、性別、 婚姻状態、就業状態	
出入国統計	—	あり
将来推計人口	—	—

## 7. ロシア

### (1) ロシア連邦統計局 <http://www.gks.ru/>

統計局にはロシア語版と英語版があるが、英語版での情報はロシア語よりもかなり限られる。英語版の人口データは、1993年から2013年までの総人口推移、年齢5歳階級別人口、1992年から2012年までの出生・死亡数、婚姻・離婚数・率の推移、簡単な死因別死亡者数などがhtmlで表示される形式となっている。以前はもっと情報があった記憶もあるが、Webの性質上htmlとなっていると頻繁に変更されるリスクがある。

また英語版トップページ下部に出版物リストがあり、統計年鑑（Demographic yearbook）や統計調査一覧、統計ポケットブックなどへのリンクがある。クリックするとロシア語・英語混在ページに移動し、ダウンロードするものは英語で閲覧可能である。統計ポケットブックは2012年、2013年のものが、統計年鑑は2002年～2013年版（2003, 2004, 2011年は欠番）のものがダウンロード可能となっている。

人口センサスデータは現在（2014年1月5日）、2010年センサス特設サイト（<http://www.perepis-2010.ru>）がアクセス不能になっており、2002年、2010年のセンサス結果は以下のサイトより閲覧・ダウンロードできるが、ロシア語のみとなっている。  
2010年センサス：[http://www.gks.ru/free\\_doc/new\\_site/perepis2010/croc/perepis\\_itogi1612.htm](http://www.gks.ru/free_doc/new_site/perepis2010/croc/perepis_itogi1612.htm)  
2002年センサス：<http://www.perepis2002.ru/index.html?id=11>

### (2) 経済高等学院（HSE）人口研究所 <http://www.hse.ru/en/demo/>

ソヴィエト時代は国家統計局に人口研究所があったが、ソヴィエト崩壊後に解体し、部分的にHSE人口研究所が引き継いだ。この研究所は、Demoscope Weeklyという人口情報週報をweb出版している。

ロシア語で世界の人口情報を発信するのが目的の様であるので、ロシア語のみであるが、Google翻訳のインターフェースがついており、各国語にGoogle翻訳しやすくなっている。

### (3) ロシア連邦人口移動局（FMS：Федеральная миграционная служба）<http://www.fms.gov.ru>

FMSはロシアにおける住民登録および外国人登録を所管しており、登録状況についてのデータを

<http://www.fms.gov.ru/about/statistics/data/>

にロシア語にて公表している。



## 8. フランス

### (1) 統計経済研究所 (INSEE)

フランスの統計局は 1946 年以降、正式名称が Institut national de la statistique et des études économiques となったことから統計経済研究所と直訳され、INSEE という略称で知られてきた。ホームページには英語版 (<http://www.insee.fr/en/default.asp>) もがあるが、リンクを辿っていくとすぐにフランス語版のみになることが多い。実際、左側の”Topics”という見出しの下にある 10 項目のうちの”The population census”をクリックするとさっそく”Résultats du recensement de la population 2010”というフランス語のみの 2010 年人口センサス結果に関するページが現れる。

次に、英語版のホームページで上に横に並ぶ 7 つの見出しのうちで最初の”Topics”をクリックすると、左側の”Topics”という見出しの下に 15 の項目が現れる。その 1 つの”Population”をクリックすると”Population Change and Structure”、”Births - Fertility”、”Deaths - Mortality - Life Expectancy”、”Couples - Families - Households”、”Foreigners - Immigrants”の 5 項目が現れる。ホームページの中心部分にも同様の 15 項目の 1 つとしても”Population”という項目が現れ、上記の 5 項目が付記されており、クリックすると同じ結果になる。

左側の 5 つの項目のいずれをクリックするとそれぞれの項目がタイトルとして”Population”に代わって出るだけで中心部分に現れるものは同じで、以下の通りとなる。

::Publications and Statistics for France and Regions

All publications, key figures and databases for France or Regions

➔ Start your search

そこで Start your search をクリックすると product type (統計資料の種類) と geographical level を選択できるが、そこから先に出てくる product のタイトルも中身も数字以外はフランス語となるので実質的にはフランス語がわからないと使えない。

英語版のホームページで上に出る”Publications and services”をクリックして”National Collections”へ行くと France in Figures 2013 Editions という英仏両語の出版物が出てくるが、人口については見開き 1 ページで非常に初歩的な指標しか掲載されていない。したがって、フランス語がわからないと INSEE のホームページで人口統計を入手するのは事実上、不可能と言える。

### (2) フランス官庁統計ポータル

フランス政府各省庁の統計資料にリンクが張られて統計資料が出てくる、日本政府の e-Stat に相当するようなポータルサイトがあり、英語版のホームページ ([http://www.statistique-publique.fr/index.php?php\\_action=ANGLAIS](http://www.statistique-publique.fr/index.php?php_action=ANGLAIS)) は”The French official statistics portal”と呼ばれる。

左側の”Search by area”という見出しの下に 18 の項目がある。その 1 つの”Population

and demography”をクリックすると INSEE を中心とするが、他省庁も含む人口関係の各種資料のタイトルが現れる。”Theme”で人口統計の大分類、”Topics”で統計資料の種類が英語でわかるものの、タイトルはすべてフランス語である。タイトルをクリックして他省庁の資料が直接出てこずに、ホームページに移動して英語版に切り替えられる場合もあるが、出てくる資料は数字以外、フランス語である。

### (3) 国立人口研究所 (INED)

フランス国立人口研究所の英語版ホームページ (<http://www.ined.fr/en/>) は固有名詞的な部分を除き、かなり英語化が進んだ人口統計が入手可能である。上の INED のロゴの下に 5 つの見出しが横に並ぶが、4 番目の”Population in figures”をクリックすると本文に解説が出るとともに、右側の”Population in figures”の見出しの下に”Metropolitan France”、”Metropolitan France and the overseas départements”、”Europe and developed countries”、”All the countries in the world”の 4 大項目が現れる。国立社会保障・人口問題研究所のホームページの「人口統計資料集」ほど詳しくないが、最新の人口統計を示し、一部の表は EXCEL の形で提供され、似たところも多い。

フランスについては最初の 2 つの大項目が直接関係するが、”Metropolitan France” (フランス本土) をクリックすると人口静態・人口動態 (国際人口移動を含むが国内人口移動は含まない) に関する 10 の中項目が現れ、その 1 つをクリックすると見出しがその中項目に代わり、その下にいくつかの小項目が出てくる。それらをクリックすると CSV 形式でもダウンロードできる表が出てくる。また、右側の中項目の見出しの下に”Downloads”と”More Information” (さらに”Lexicon”が出る場合もある) が出て、その下の項目をクリックすると関連する表を CSV 形式でダウンロードしたり、INSEE のフランス語版ホームページにアクセスしたり、PDF 形式の関連文献にアクセスしたりすることができる。表題が、項目が英語で書かれている場合でも表は数字以外、フランス語であるが、関連文献が機関誌 *Population* の英語版の解説論文 (特に”Recent Demographic Developments in 2013”といったタイトルで毎年 3～4 号に掲載される、最新年の人口動向報告は有用) の場合や *Population & Societies* 紙の場合は図表とその解説が英語で読める。”Metropolitan France and the overseas départements” (フランス本土と海外県) についてはクリックしても人口総数の表と解説が同様のフォーマットで 1 ページ出てくるだけである。

### (4) 経済協力開発機構 (OECD)

フランスのパリには国際機関の OECD があり、非英語圏の加盟国と一部の非加盟国に関しても人口統計を提供している。下記の OECD Family Database では、結婚、出生、世帯、健康、労働力に関する人口統計が比較可能な形で掲載されている。

<http://www.oecd.org/els/family/oecdfamilydatabase.htm>

下記の OECD Migration Database では国際人口移動のフローとストックに関する各種の人口統計が比較可能な形で掲載されている。

<http://www.oecd.org/els/mig/oecdmigrationdatabases.htm>

なお、以前はストラスブールにある国際機関 Council of Europe が非英語圏を含む 47 加盟諸国についてヨーロッパ人口統計年鑑 (*Recent Demographic Developments in Europe*) を出版しており、2004 年版まではインターネットでアクセスできたが、2005 年版で廃刊となったようである。